

県知事選挙をおえて

草野芳明



えてくれたこと、田村市の農村部を回った際には、どの農家も田畑での作業中に手を振ってくれたこと、郡山市内では教え子と思われるドライバーが、大きく手を振って挨拶し「頑張つて」と大声で激励してくれたことなど、強く印象に残っています。

今回の知事選では、汚染水の海洋放出問題や学校給食費の県の責任での無償化、県立高校の統廃合計画の凍結見直しなど、県民の要求運動と一体の政策を掲げ、わかりやすい争点での現職と一騎打ちの闘いになりました。現職知事が県民の代表ではなく、国言いなりの立場を貫いていることも浮き彫りにできましたが、残念ながら勝利することはできませんでした。

せめてあと一ヶ月はやく立候補を決意し、告示前の準備、根回しができていたらと思うところです。しかし、これはつくる会としての知事選の位置づけや闘い方として総括されるべきところですので、正式な総括を待ちたいと思います。

一方、共産党だけでなく緑の党からの推薦、れいわ新選組サポーターや各市民団体からの支援など、今までのつくる会の取り組みにはみられなかった幅広い運動の広がりも作ることができました。

「やって良かった」という思いが、正直な気持ちです。

知事選で掲げた政策・要求の実現にむけ、今後奮闘することをお約束し、選挙戦終了のごあいさつといたします。

清風

十月、福島全県に爽やかな旋風が駆け巡りました。全県を隈無く、モヤモヤを吹き飛ばしてくれた風は、草野芳明さんでした。草野さんからは人柄でまず誠実、爽やか、やさしさが、そして、知的理性に裏付けられた語り掛けで、未来に勇気を持たせてくれた新しい風です。

もううんざりなのです、岸田政治には。政治権力を私物化し、破綻して政権を投げ出した「安倍政治」踏襲を約束し、ただ自己保身に走る醜い姿の岸田総理に。国葬と軍拡は素早くやっても、国民の命や生活にかかわること、正義や倫理に関することなどは何も持ち合わせていないことが次々あからさまにさらされて。推し量るべきや岸田内閣の面々。下卑た笑いを取ろうと「死刑」をもてあそぶ発言やウソを重ねる閣僚たち。人間品格のありようを示した憲法を敵視した思想を根源にして無節操にカルト集団の泥沼にズブズブ入り、にっちもさっちもない集団。残念ながら、そこから足をつかまれ、引きずりこまれてきている県知事。明るい未来の展望は生まれなかった淀み。

しかし、草野さんが日本国憲法の視座で明るい未来を示しました。私たちは前に進めます。広く手をつないで。

(N・S)

十月三十日投票で行われた県知事選。みんなで新しい県政をつくる会の知事候補としての約一ヶ月の取り組みは、私にとって一生忘れられないものとなりました。支持者、支援者の皆さん、つくる会の選挙運動を支えて頂いたみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございます。ありがとうございました。

最終盤にきて、コロナ感染により、最後まで選挙運動を取り組めなかったことは、大変残念でなりません。しかし、やるべきことはやったという満足感もございます。

勿来の漁協組合長さんからの激励、夕方にバス待ちしている好間高校の生徒が十人ほどで、全員で候補者カーにむけ手を振って応